

岡本 俊

(市民連合)

オーガニックアカデミー

事業の評価と今後は

問 樹海東小学校跡地利用のオーガニックアカデミー構想は、農業技術者の育成、食農教育の場・農産加工・地域経済の活性化を目的に、研修・農産加工・観光農園、投資総額は5年間で1億6千万円である。計画4年目に入るが、現状は計画と大きく乖離している。22年の事業評価と23年度の事業計画、地域再生計画との整合性について伺う。

答 地域の支援協議会との連携



進展が望まれるアカデミー事業

により事業が推進され、長期研修実績延べ18日間19名、短期研修21名だった。23年度は職員が定住し地域研修会を定期的に開催。「6次産業創出総合対策予算」への申請を行い、事業拡大を図り有機栽培の公的認証も視野に検討したい。地域再生計画との整合性は、有機型農業の研修や農業技術指導を行っている。当初計画通りに進んでいない部分はあるが、最終年の平成23年度についても期待したい。

農地流動化対策は

問 農地情報のデータベース化及び共有情報に基づく農地流動化の適正化について伺う。

答 今後、高齢化による離農が

進行し、農地が大量に供給されること予想される。農地情報は農業委員会の農地台帳、農協の農地マップシステム、土地改良区の地図情報システムなど各農業機関がそれぞれ活用。担手の経営農地を面的に集積し、農作業の効率化、経営の多角化等重要な課題であり将来は一元化された農地情報に関係機関が共有することは必要と考える。

天日 公子

(民主クラブ)

認可保育所の再編は

問 認可保育所の再編は中心市街地に、新たな公共施設を整備するとしている。進捗状況は。

答 認可保育所施設の老朽化が進み、安全・安心の保育環境の整備のため計画。内閣府の子ども・子育て新システム検討委員会の動向を注視しつつ、幼稚園や認可外保育所など関係団体との情報・意見交換を行い、特に0歳児から2歳児までの保育と3歳児から5歳児までの保育について検討。

問 中心市街地での再編は経済が優先で話されているが子ども教育上の課題は無いのか。

答 街中の高齢者などとふれあいを持つことの機会が生まれ、成育環境や親子での教育力も高まり教育効果が期待される。

指定管理者への移行は。

問 平成17年度に認可保育所2カ所の内最低1カ所は直営で、1カ所は指定管理者制度の検討

も必要との事から内部で論議中国の幼保一体化についても議論の段階なので引き続き検討。

思春期保健対策は

問 学校における性教育の現状と課題の取り組みは。

答 近年、性情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化。子どもたちが性に関して適切に理解し、行動できるようにすることが課題。

問 頸がん予防ワクチン接種における学校指導は。

答 保健福祉部と連携を図り、生徒に対し子宮頸がん予防ワクチンに関するパンフレットを配布し、予防ワクチン接種に係る正しい知識を啓発する。



中学保健体育の教科書